日本の緑化事情 / 光合成で大気浄化できる?

植物が光合成をする際に有害物質の「浄化作用」がある事が解っています。

つまり、大気中の汚染物質を吸収し浄化する「生化学的作用」があるのです。例えば観葉植物で多用されているポプラ。これは二酸化窒素の同化能力が非常に高いとわかっています。ということは、都会の交通量の多い道路などをポプラで埋め尽くすとかなりの効果が上がるわけです。

明治神宮など都会にありながらも広大な緑化区域で大気汚染度を計測したところ、緑地の中心部では周辺部に比べて5〜60%まで低下していました。神宮の森の空気は美味しいというのは、感覚では無く空気はあるいみ澄んでいるのです。

実際には植物によって吸収には差があることもわかっていますし、植物の設置状況によっても差があるのですが、適切な植物品種や配置をおこなえば、高効率で吸収させることは可能です。

これらの理屈を応用した製品も出現していますがまだまだ過渡期でもあり価格も高いことから直ぐには普及は出来ないと思いますが、植物を利用して効率よく大気を浄化する仕組みづくりは大切なことだと考えます。

このように強制的にする方法も今後発達していくと思われますが、まずは植物を増やすことが最重要課題と考えます。

神宮の森で空気が美味しいと言うことを裏付けるものとして、英国のエクセター大学の研究チームは、「大気汚染が悪い都市部でも樹木が多い地域ならば、喘息で入院するリスクは低下する」という論文を発表しています。

少ないより多い方がよい「一つ一つの積み重ねが大きな効果を得る」まさのこれにつきると思います。

スタッフ紹介

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

岡山工場・製造部で事務をしております、瀬島あいと申します。入社後3年経ってもまだまだ知識不足で日々勉強の毎日です。

私の業務内容としましては、電話や来客応対、タイムカードの集計、仕入処理、作業票の入力、出荷業務などです。出荷業務は以前は送り状の作成をメインに行っておりました。最近では新入社員の方に引継ぎ、私は出荷指示の業務を覚えるべく先輩に指導いただいております。

前職は本屋・レンタルショップ・アパレルでの販売スタッフなど様々なジャンルの仕事を経験してまいりました。短期やスポットバイトもありますが、どれも私の経験値となり、仕事や生活する上で役立っております。

私には二人の娘がおります。小学校2年生と保育園年長さんです。二人とも海の生物や恐竜に大変興味があります。子供の「好き」は期間が短かかったりしますので、「好き」なうちに知識を増やしたり良い経験ができるようにと思っています。水族館や動物園へ行ったり、図鑑を買ったり。最近では図書館もよく利用しています。図書館で借りた本が気に入れば、いつでも読めるようにと買ったりもします。

我が家の教育方針の中に、「本に関しては子供が欲しいと言ったらすぐに買う」があります。誕生日やクリスマスなどの特別なプレゼントとしてではなく、日常的に親しめるようにとの思いからです。また、恐竜の熱が冷めないうちに、福井県の恐竜博物館、福岡県のいのちのたび博物館へ連れて行ってあげたいと思っています。個人的にも興味がありますので、なるべく早く行きたいところです。

まだまだ若輩者ではありますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

次号も
お楽しみに

URL：https://dainichikasei.cp.jp

Vol.62

映画で学ぶ環境問題

ドント・ルック・アップ
原題：Don't Look Up

監　督：アダム・マッケイ
制　作：アダム・マッケイ
　　ケビン・メシック
出演者：レオナルド・ディカプリオ
　　ジェニファー・ローレンス
　　メリル・ストリープ
上　映：138 分
配　給：Netflix
公　開：2021 年（日本）

ドント・ルック・アップというタイトルだけでは何の映画なのかが判りかねるタイトルですが、主演は環境活動に熱心に力を注ぐ誰もが知るハリウッドスター、レオナルド・ディカプリオ。そしてジェニファ・ローレンス。米大統領役としてメリル・ストリープなど大物俳優満載の作品なのでジャケ買い的に無条件に見始める方も多いかもしれません。

映画の内容は、天文学者ミンディ（ディレオナルド・ディカプリオ）が大学院生ケイト（ジェニファ・ローレンス）から巨大彗星が地球に衝突する可能性があると報告を受けます。そして自分でもデータを解析し高確率で衝突することを確信し一大事と政治家を動かしホワイトハウス（米大統領）に報告します。そしてテレビにも出演し事の重大さを訴えるのですが、変人扱いをされ誰も耳を貸そうとしません。

結果としては衝突し巨大津波や巨大地震が起きてしまいます。

物語は誰も耳を貸そうとしない中、奔走し事実を訴えるところですが誰にも相手にされないことにあります。

「ドント・ルック・アップ」直訳すれば「見上げるな」と言う事ですが、これを深く考えてみると、空から彗星が突っ込んでくるのに、見上げるな。とは、昨今フェイクニュースでさも実際に起こっているかのようなものがよく出回ります。それらをファクトチェックし嘘である事を暴く。これの繰り返しです。

見上げるなとは、騒動などは嘘の塗り固めばっかりで見るなって事では無いでしょうか。つまりは見て見ぬ振り、最近の言葉であればスルーせよ。というふうに現代社会を風刺していると思えてしまいます。

現在の環境問題においても同じ様なことが思えてきます。学者が何年もかかり研究した結果「危険である」と発表しても相手にしない。耳を貸さない。ことが大半では無いでしょうか。もっともその発表が真実に基づかずデタラメや自分は正しいという思考性が強いものは別です。

映画の中では、政治家やマンモス企業の都合の良いように解釈され利益優先で進んでしまいます。これは映画の中、娯楽の中での話しなので良いのかもしれませんが、実際の世の中においてはあってはならない事であると思います。

昨今の流行なのか意図があるのか何とも言えませんが、環境問題に貢献していることを前面に出すことが企業にとって有益になる趣があります。

全ての学者の意見が正しいとは思いません。なかには有名になりたいからという人もいることでしょう、遠からずそうなってしまうという的を射た発表もある事でしょう。

そういった発表を他人事にせず、聞く耳を持ち有る程度何が正しいのかファクトチェックまでするのは困難ですが、関心を持つ。ということが重要では無いかと思います。

彗星が衝突するという映画ではありますが、現代の政治や国際社会を風刺し聞く耳を持とうよ。でないと死滅してしまうよ。と感じさせてくれる作品です。